

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月25日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	○他者と協働し、生徒が「わかった・できた・つながった」を実感できる授業のあり方及びその評価方法について検討・共有する。	○他者の考え方を知ることにより、自分の知識を深めたり広げたりできる授業展開を検討・共有する。	○自分の考え方を共有したり、他者の意見を聞いたりするための場面設定やICT機器の活用の実践例を共有し、実践する。	○生徒による授業評価における「人の意見を知ることにより自分の考え方を広げることができた」「自分の意見を表現したり話し合ったりする機会がある」の回答が、すべての教科で85%以上「当てはまる」になったか。	○前者の項目については約83%、後者の項目については約90%が「かなりあてはまる」、「ほぼあてはまる」と回答している。	○ICT機器の活用実践例についても、継続して共有を図る。 ○自分の意見や考え方を深め、他者と共有できる機会を設定していく必要がある。	○授業評価の結果から他者の意見を知ることにより自分の考え方を広げる授業実践ができていることがうかがえる。ICT機器の活用については、技能の向上に加え、授業内容に対する興味・関心を高めるために活用するとよいのではないか。	○生徒による授業評価をふまえて教科会で授業改善のための具体的な手立てを検討するとともに、授業において工夫している点を共有することができた。ICT機器の活用実践例も職員会議前の時間に研修を設定することができた。	○研究授業や授業見学を通して授業方法についての検討し、組織的に授業改善を進めていく。ICT機器の活用についても引き続き全体で生徒の興味・関心を高める工夫を検討する。
2	生徒指導・ 支援	①生徒に「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制を推進するとともに、生徒が自らの課題に気づき、その課題を解決しようとする姿勢を育てる。  ②生徒の規範意識を定着させる指導のあり方を検討し、生徒が自身を律して社会で生きていける力を育む。  ③学校行事や部活動等をとおして、他者と協同して豊かな人間関係を構築する力を育む。	①教育相談の周知と相談体制の整備を図り、相談から課題解決に至る道筋をつくる。  ②毅然たる「指導」と寄り添う「支援」の両立を図り、「安心・安全な学習環境」の確立に努める。  ③部活動加入者を増やすとともに、その活発な活動を推し進める。また、学校行事をとおして、生徒主体の運営とその活発な活動を引き出す支援を進める。	①教育相談における広報活動を充実させるとともに適切な相談につなげ、相談窓口の最適化を図る。  ②生徒の規範意識の育成と「予防」の観点を重視した指導・支援体制を構築する。  ③生徒会執行部やフロンティアチームを中心、生徒が主体的な活動ができる場や、学校行事等で部活動が活躍できる場を設定する。	①生徒に向けて、教育相談の広報ができたか。また、解決事例を共有し、分析することができたか。  ②生徒の規範意識を育成する機会が設けられたか。また、個別最適な指導・支援が実現できたか。  ③部活動加入率が30%程度となったか。 ・学校行事を中心に、部活動の活躍の場が広がったか。 ・生徒会執行部やフロンティアチームの活動の場を設定できたか。	①担任を通じてSC・SSWIにつなげる流れは定着している。スクールメンターも含め、多様な相談・支援体制が成立している。  ②年次集会を適宜開催し、生徒の規範意識涵養を図るとともに、問題行動の未然防止へ向けた呼びかけを行った。  ③部活動加入率は29%にとどまった。 ・本年度は3つの部活動が全国大会に出場し、神奈川部活ドリーム大賞を受賞した。 ・生徒会行事では港南区若者会議に参加し、外国につながりのある生徒との共同企画を新たに行つた。ボランティアにおいてはコロナ禍以来の子ども食堂に参加し、活動の幅を広げた。	①スクールメンターの認知度高めるため、広報活動を充実させる。解決事例共有を、次年度職員研修の機会に設けたい。  ②年次集会テーマを各時期ごとに整理することで、予防的措置をより充実させる。  ③部活動の加入率は目標を達成しなかったとのことであるが、生徒の実態を考えれば加入率は高い数値であるといえるのではないか。  ・今後も生徒会行事やボランティア活動の充実を図る。地域とより連携を取れるように体制を整えてい。	①教育相談体制は確立されている。生徒にとって、困ったことが起こった時に相談する手立てを知っておくことが大切である。  ②年次集会において、規範意識を促す指導を促すことができた。  ③部活動の加入率は目標を達成しなかったことであるが、生徒の実態を考えれば加入率は高い数値であるといえるのではないか。  ・生徒会執行部やフロンティアチームのボランティア活動が活発に行われていた。その他の生徒に対してもボランティアの機会について周知し、より多くの生徒がボランティアに参加できるとよい。	①SC・SSW、スクールメンター、外部機関との連携を図り、それぞれの生徒に必要な支援を行うことができた。  ②生徒の規範意識を高めるとともに問題行動に対しては、それぞれの生徒に対して生徒の実態をふまえて適切な指導を行った。  ③部活動紹介等を通じて部活動の楽しさを発信し、さらに加入率を高めていく。	①サポートドッグなども活用しながら、困境感がある生徒をSC・SSW、スクールメンター等につなげて、教育相談体制の充実を図る。  ②引き続き予防的観点から、年次集会や各HRで規範意識を高める指導を行う。  ③部活動紹介等を通じて部活動の楽しさを発信し、さらに加入率を高めていく。  ・全校生徒に対してこれまでのボランティア活動の様子を広報したり、ボランティアの募集を呼びかけたりすることで参加者の増加を目指す。
3	進路指導・ 支援	○生徒の社会生活実践力を育成し、社会とつながり、主体的に進路設計ができる力を身につけるための支援を行う。	①自己および他者への理解を深めることをとおして、生徒が自己の役割や責任を認識し、社会とつながる力を身につけるための支援を行う。	①「総合的な探究の時間」を中心とした学習活動や外部機関等を活用した様々な体験活動をとおして、社会とのつながりや働くことの意味等に対する理解を深めさせる。	①「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア形成に係るプログラムを、各年次で計画的に実施することができたか。	①各年次とも「総合的な探究の時間」と「キャリア教育」を計画的に実施し、社会や職業、働くことの意味などに対する理解を深めさせた。	①勤労観、労働観をより効果的に育成するため、「総合的な探究の時間」と他教科との連携を強化する。	①1年次より計画的にキャリア教育が実践されていた。キャリア教育の学びによって、生徒は就職・進学のために、何を取り組まなくてはならないのかが明確になるのではないか。	①今年度の卒業生の進路状況については、「その他」の項目にあてはまる生徒が減少し、キャリア教育を通じて、一人ひとりに合った進路選択を行うことができた。	①各年次の実態に応じてキャリア教育の教材や進路ガイダンスの内容について検討を進める。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価（3月25日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
		②生徒が主体的に将来を考え、個々の関心や能力、適性に応じた進路を実現するための支援を行う。	②生徒一人ひとりの希望進路を実現させるために、個別面談や進路ガイダンス等をとおして適切な情報を提供する。	②生徒のニーズに合った情報提供を、適切な時期に行うことができたか。	②生徒一人ひとりのニーズに応じた情報を適切な時期に提供し、進路実現のための支援を行った。	②進路適性検査、レディネステストの活用法を検証し、生徒がより主体的に進路設計ができるようにする。	②進路適性検査やレディネステストの結果を生徒が振り返るだけでなく、教員が助言するための資料として活用できるといのではないか。	②生徒が自分自身の進路について考える上で、進路適性検査やレディネステストの結果を振り返らせるなどしてより有効活用できるよう検討する。	②進路適性検査やレディネステストの結果を面談等で活用するなどしてより有効活用できるよう検討する。	
4	地域等との協働	○地域や外部の諸機関等との連携体制を整備・拡充し、地域と協働した教育活動・学校運営を行う。	○地域や外部機関との連携を通じて「社会とつながる」ことを重視した教育活動の充実を図る。	・地域とつながることのできるボランティア活動の機会を増やすことができたか。  ・地域や外部機関の人材を活用した学習活動を展開する。	・生徒のボランティア活動の機会を増やすことができたか。  ・生徒の「社会とつながる意識」を高める教育活動に取り組むことができたか。	・例年行っている活動に加えて地域のイベントや区の意見交換会に参加し、地域の方との交流を行うことができた。  ・近隣の保育園や地域の高齢者の方のご協力を得て「社会とつながる」学習活動に取り組めた。また、「特色ある高校等教育活動支援事業」による外部講師を招いての授業を実施した。	・生徒会フロンティアの活動について全校生徒に周知を図り、参加者を増やしていく。  ・地域においてはさらに新たに学習活動ご協力いただける外部機関や人材を探していく。	・ボランティア活動に取り組むことが生徒の自己肯定感を高めることにつながったのではないか。  ・外部の人材との関わりによって、教育的効果が得られているのではないか。地域の高齢者が参加した授業では、生徒だけでなく参加した高齢者にとっても有意義な機会となつた。	・ボランティアについては、子ども食堂、スポーツフェスティバル、防犯教室、駅前清掃活動等に取り組むことができた。  ・あーすぶらざと連携した外国につながりのある生徒を対象とした進路ガイダンスの開催や、外部の方を招いての授業実践を行なうことができた。来年度以降も協力していただける人材や外部機関を増やしていきたい。	・地域でのボランティア活動がより広がるよう地域の方に働きかけていく。  ・生徒が利用することのできる外部機関を検討し、生徒がより地域とつながれるよう努めていく。
5	学校管理 学校運営	①安全、安心な教育環境を維持・推進するとともに、本校の教育活動に適した学習環境の整備を進める。  ②保護者や地域と連携した防災教育活動を進め、生徒の防災に対する意識を涵養する。  ③事故不祥事を未然に防ぐ環境を作る。	①生徒の安全を確保し、よりよい学習環境を整える。  ②生徒及び職員の防災意識を高める。  ③事故不祥事を未然に防ぐために、定期的な研修会の実施と風通しの良い職場づくりを実践する。	①グラウンド改修工事を安全に進め、安全な生徒の活動場所を確保する。  ・定期的に施設点検を実施し、改修箇所等を早期に発見する。  ・ICTによる学習環境を整える。	①生徒の活動場所を確保し、安全にグラウンド改修工事を終えることができたか。  ・熱中症等に配慮した学習環境を確保できたか。  ・破損箇所の素早い改修を行うことができたか。  ・電子黒板導入のための準備を進められたか。	①工事担当者との連絡を密に取り、学習環境に配慮しながら無事に工事を終了することができた。  ・各HR教室と選択教室に電子黒板を配置し、利用しやすい環境を整えた。	①次年度以降予定される体育館天井工事なども安全にかつ学習環境を整えられるよう工夫を行う。  ・電子黒板等を有効的に活用できるよう職員研修を継続的に実施していく。	①生徒の安全に配慮した学習環境を整えることができた。  ②より多くの参加者が防災に关心を持てるような企画を実施する必要がある。	①グラウンド工事の進捗状況について、職員の打ち合わせで随時、周知し、生徒の安全確保に努めることができた。  ・年度途中で導入された電子黒板はすぐに授業で活用できるよう速やかに教室にセッティングするとともに、使い方について職員に周知を図った。	①体育館天井工事についても生徒の安全が確保できるよう工事担当者と綿密に打ち合わせを行う。  ・電子黒板やタブレット等のICT機器が有効に活用されるよう適切に設置・保管していく。
		②参加型の防災研修を行うことができたか。	③定期的に事故不祥事防止研修会を行うことができたか。	②職員研修に保護者も参加し、喫食訓練を含め、使用方法の確認と備蓄状況の確認を行った。	③毎月、啓発資料を用いて事故・不祥事防止研修を行った。10月には本校の具体的な事例を用いて、小人数で事故防止について話し合う場を設定した。	③職員間でコミュニケーションを取りながら、点検作業に取り組む必要がある。	③話し合いの場面も設けながら事故・不祥事防止研修を実施することができ、防止に向けての意識をより高めることができたのではないか。	②生徒対象の避難訓練及び職員向けの防災研修も実施した。今後も引き続き、様々な状況を想定した防災訓練を実施していく。	②地域と連携した防災訓練計画を進めるとともに継続して防災用品の使用方法についての研修を実施していく。	
		③定期的に事故不祥事防止研修会を行うことができたか。	③定期的に事故不祥事防止研修会を行なうことができた。	③毎月、啓発資料を用いて事故・不祥事防止研修を行なうことができた。	③話し合いの場面も設けながら事故・不祥事防止研修を実施することができ、防止に向けての意識をより高めることができた。	③毎月の事故・不祥事防止研修に加えて、打ち合わせ時に県内で起きた事故・不祥事について伝達し、職員の事故防止に対する意識を高めるよう努めた。	③月1回の事故・不祥事防止研修を行うとともに話し合いを取り入れた研修を検討・実施する。			